

1992/1
対決!! レビン
シビック 試乗インプレ

LEVIN V

(AE101)

F3レーサー

大文字良浩& 乗り比べ言いたい放



LEVIN VS CIVIC

街で峠(?)でサーキットで、ヤング諸君を魅了して止まないレビン&シビック。この2車が、今年6月と9月に相次いでフルモデルチェンジを遂げた。

かたや、トヨタ初の5バルブを採用。さらには、エンジンの運転条件に応じて吸気側のバルブタイミング

時をほぼ同じくして、レビン&シビックがフルモデルチェンジされた。それは特に、若者にとっては、衝撃であり感動のニューカーの登場であった。今やヤングジェネレーションのスポーティカーの代名詞にもなったこの2台。今回は、今年、F3で活躍した大文字良浩、金久憲司の暴れん坊レーサー2名に試乗してもらい、乗り比べ言いたい放題インプレッションをしてもらった。彼らなりの限界走行、その感想はいかに!?

を2段階に制御するVVT(可変バルブタイミング)を搭載し、最高出力160ps/7,400rpm、最大トルク16.5kg-m/5,200rpmを発するスポーツインカムユニットを搭載するレビン(GTアベックス)。そして、圧縮比を10.4にまで高めた他、バルブタイミングとバルブリフト量を変更するなどして、最高出力170ps/7,800rpm、最大トルク16.0kg-m/7,300rpmを絞り出すニューVTECユニットを搭載するシビック(SiR-II)。今月はレビン&シビックの中でもヤング諸君ぞっこんのこの2車にスポットを当て、試乗インプレッションにトライしてみた。

インプレマンは、'91シーズンにF3で活躍した大文字良浩選手と金久憲司選手だ。カーロード杯出身の大文字選手と中山サーキットでは敵なし(!?)と言われた金久選手。乗り方こそ違う2人だが、当日は細くタイトなコーナーの連続するコースで限界に挑戦してくれた。

2名とも、それぞれのクルマに乗ってもらったわけだが、レビンのスーパーストラットサスペンションをコトの他、気に入った金久選手と、低バネレート化&ロングストローク化されたシビックの新しい足回りにぞっこんだった大文字選手。

結果は、ほとんど正反対(!?)のインプレ結果となってしまったが、何はともあれ、諸君の気になる部分の話が聞けたと思う。レビンフリー

ク&シビックフリーク必読、大文字選手と金久選手の言いたい放題インプレッションだ。

(当日、当方の手違いによりレビンがAT車だったこと。また、タイヤも条件が違い、イコール条件でなかったことを、お詫びします)

本日のインプレマン

金久憲司 (30歳)

F3レーサー(チームIKI)



プロフィール

S35年12月12日、徳島県生まれの30歳。現在、オートラマ中大阪でディーラーマンとして勤務する一方、FJ1600、フォーミュラージュを経て、今年からF3にトライする。入賞経験はないが、アグレッシブな走りには定評をもつ個性レーサーだ。'92年もチームIKIよりフルエントリー予定。将来は、F3000、GrA、耐久といったトップカテゴリーを夢見る。今回は、仕事、レース、峠時代に味わった豊富な走りの経験を武器にインプレ初挑戦。チョイト危ないシーンもあったが、限界ギリギリの文字通りの熱い走りを見せてくれた。独身、A型、男前!

本日のインプレマン

大文字良浩 (31歳)

F3レーサー(フーセンウサギチーム)



プロフィール

S35年3月29日、大阪市生まれの31歳。'80年、中山サーキットでのカーロード杯でレースデビューし、以降、FJ1600を経て、'90年後半よりフーセンウサギのサポーターを受けF3に参戦。普段は、工業デザイン&グラフィックなどを手掛けるラッキーベニーカンパニーのチーフプロデューサーの顔を持つ。フォーミュラカーに魅せられ、国内トップのF3000に向けて爆進中。'92年も今年と同様、フーセンウサギチームからF3にフル参戦予定。マシンのポテンシャルを100%引き出せるインプレをしたいと奮闘を語る。既婚、O型、男臭さが魅力の野性児と言える!